

広島県子育てサポートステーション
いくたす 福山／府中

年間活動報告 (2013.04～2014.03)

広島県子育てサポートステーション運営事業
委託運営：社会福祉法人昌和福祉会(福山市)

＜広島県子育てステーション事業 概要＞

○子育てサポートステーション いくたす福山

住 所 〒720-8524 広島県福山市入船町3-1-60 イトーヨーカドー福山店内(2F)駐車場完備
連 絡 先 TEL:084-931-6606 Email: ikutas@urban.ne.jp
スタッフ数 9名 うち常勤スタッフ(2名 ※保育士) パートスタッフ(7名 ※5名保育士 1名幼稚園教諭)
設 備 面積:約100㎡ トイレ給排水:なし 空調:冷暖房完備 授乳コーナーおむつ交換台完備
事業開始 2010年10月1日より

○子育てサポートステーション いくたす府中

住 所 〒726-0004 広島県府中市府川町186-1 府中天満屋ソシア内(2F)駐車場完備
連 絡 先 TEL:0847-45-0822 Email:ikutas02@urban.ne.jp
スタッフ数 7名 うち常勤スタッフ(4名 ※保育士) パートスタッフ(3名 ※2名保育士 1名栄養士)
設 備 面積:約100㎡ トイレ給排水:なし 空調:冷暖房完備 授乳コーナー完備
事業開始 2011年5月1日より

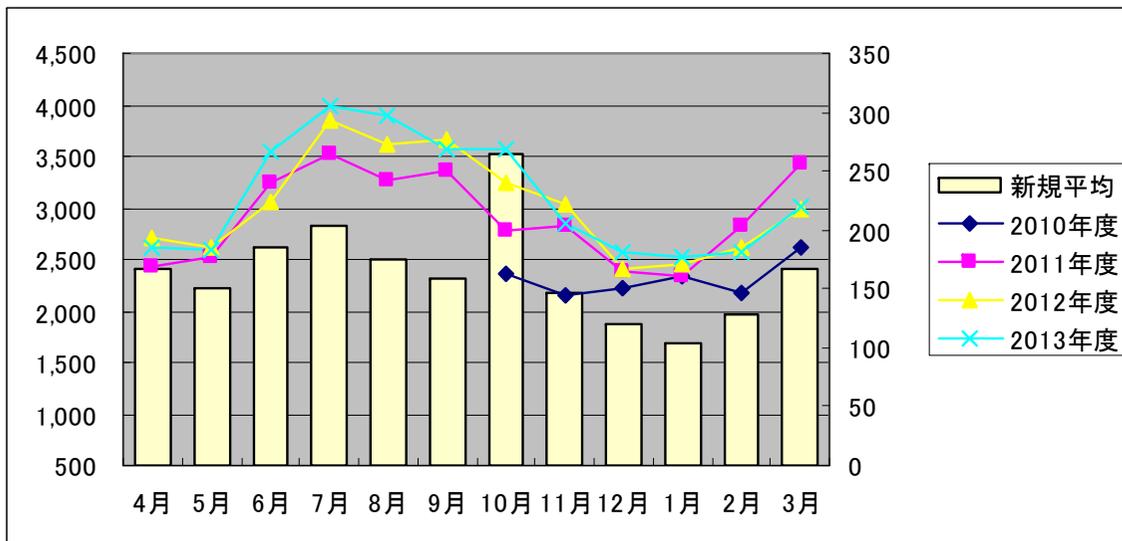
☆共通事項 開所時間 10:00～16:30
開所日数 年末年始を除いて年中無休(360日)
研修体制 毎日16:30～16:45(相談内容や運営に関するスタッフミーティング)
年間2回の地域内の子育て支援施設のスタッフとの活動報告会と専門研修
全国子育て支援セミナーへの参加 保健師による保健講座への参加他

1.広島県子育てサポートステーション運営事業報告

柱① 親子の集うひろば 利用状況

● いくたす福山

年度	期間	利用者総数	利用組数	1日平均利用者数	新規登録組数	1日平均登録組数
2010	2010年10月1日～2011年3月31日	13,847	5,790	78	1,641	9
2011	2011年4月1日～2012年3月31日	34,964	15,358	97	1,927	5
2012	2012年4月1日～2013年3月31日	36,236	15,824	100	1,696	5
2013	2013年4月1日～2014年3月31日	37,275	16,110	105	1,475	4
総合計		122,322	53,082	95	6,739	6

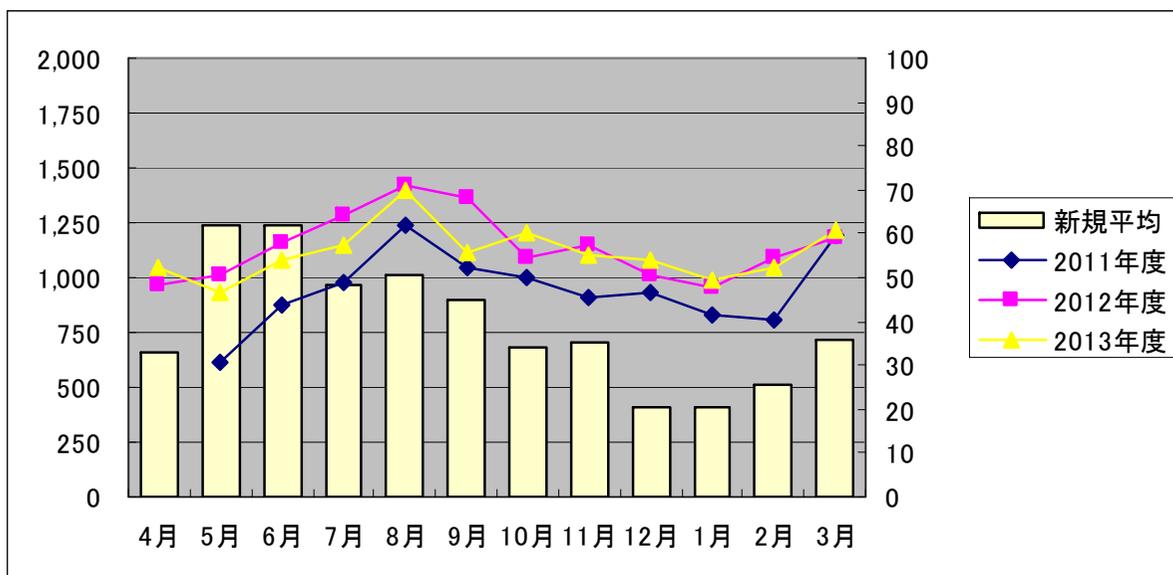


<傾向>

- ・冬になると様々な感染症が流行するため、例年減少傾向にある。
- ・平日は平均1時間強である。父親との利用率が増え、土日・祝日は家族での利用が3割、母親の買い物を待つ間の父親だけの利用も2割程度になっている。そのなかで、母親の時間をつくってあげたいとの思いで利用される方もあり、そのような方は長時間にわたる利用になっている。
- ・父親は母親とは違い、子どもたちが他の子どもと関わることをあまり見る機会がないので、わかる範囲の子どもの普段の姿を伝えている。また、父親(男性)特有の悩みや気づきもあり、スタッフは子どもとの遊びを見守るなかでできるだけ話しかけ、相談にも応じている。

● いくたす府中

利用者数の推移						
年度	期間	利用者総数	利用組数	1日平均利用者数	新規登録組数	1日平均登録組数
2011	2011年5月7日～2012年3月31日	10,433	4,318	32	620	2
2012	2012年4月1日～2013年3月31日	13,657	5,803	38	411	1
2013	2013年4月1日～2014年3月31日	13,291	5,427	37	350	1
総合計		37,381	15,548	36	1,381	1



<傾向>

- ・午前は未就園児、午後は幼稚園からの帰りの利用は継続している。
- ・第二子、第三子の出産に伴い、複数の子どもとの利用率が上がっている。一人の親では当然複数の子どもを見るのが困難な場面が出てくるのでフォローを入れながら、できるだけ上の子どもとの時間を密にもつことで情緒のバランスが取れるように配慮している。
- ・幅広い年齢層の利用により、低年齢の子どものお安全面も配慮する必要があり、自由遊びのなかにも高年齢の子どもたちが落ち着いて遊べるような環境構成や、遊びの設定にも工夫をしている。

柱② 子育て相談 利用状況

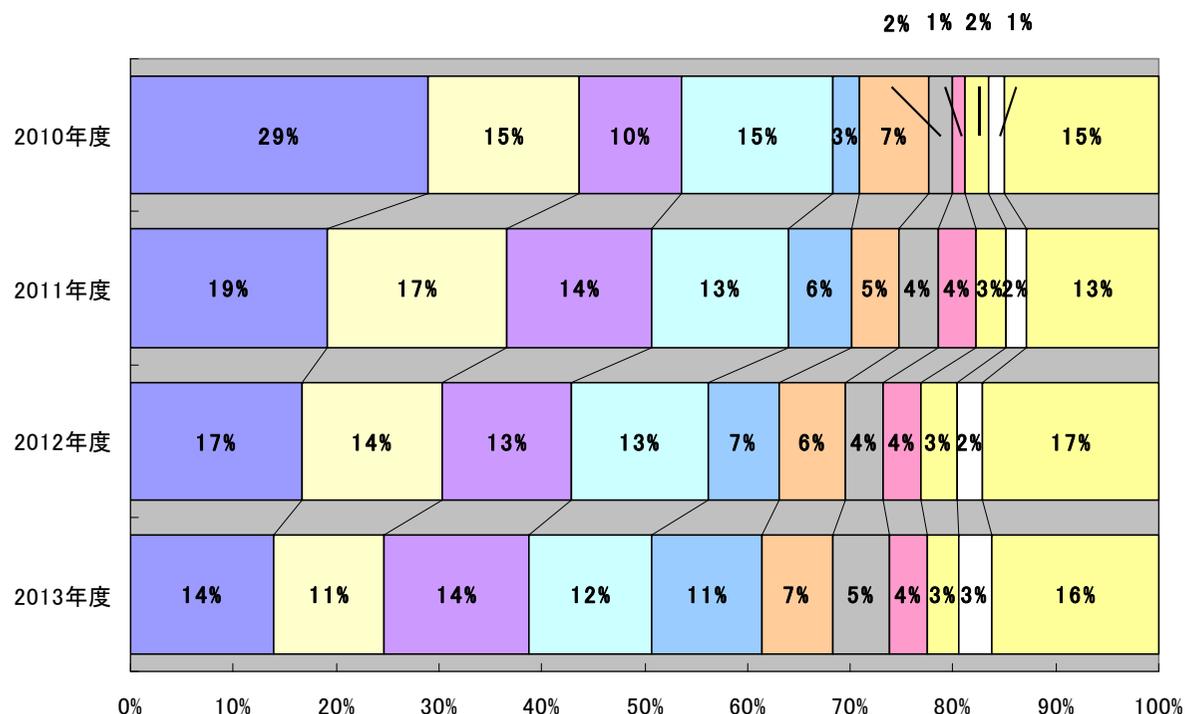
■ 食事 ■ 生活習慣 ■ 情緒 ■ 身体運動 ■ 相談者自身 ■ 対人関係 ■ しつけ ■ 知的 ■ 言語 ■ 家族関係 ■ その他

● いくたす福山

相談件数			
年度	期間(月)	件数	月平均
2010	5	1,872	374
2011	12	6,237	520
2012	12	4,125	344
2013	12	5,673	473
合計	41	17,907	428

● いくたす府中

相談件数			
年度	期間(月)	件数	月平均
2011	11	3,051	277
2012	12	3,284	273
2013	12	5,704	475
合計	35	12,039	342



<傾向>

・言語や身体運動、知的など、子どもの発達について不安に思う保護者の増加が著しい。それと共に、やはり相談者(保護者)自身の問題についての相談が顕著に増加傾向である。様々な情報が飛び交うなか、それに惑わされずに保育のプロとして子育て支援スタッフに助言を求めているととらえられる。その他の項目のなかには、保育所幼稚園への入所に対しての情報や、健康問題についての相談が多い。

<課題>

・発達に課題があるといわれた保護者の苦悩が増えてきている。集団保育の前に、1歳6か月や3歳児健診時に少しでも早い段階に行動を起こすよう保健師等から助言を受けることが多いなか、保護者も不安を募らせている。もちろん個人差はあるが、普段の行動や言語の獲得の状況から子どものプロとしての視点を持ち、保護者が行動を起こすまでどのようにフォローするかは継続的な課題である。

・保護者自身の問題については、子育てするうえで大きく関わりをもつ。家族関係や夫婦問題などの安定が、家族の心の安定につながる。相談中に突如涙が出てしまう場合もあり、相談体制についても課題が残る。

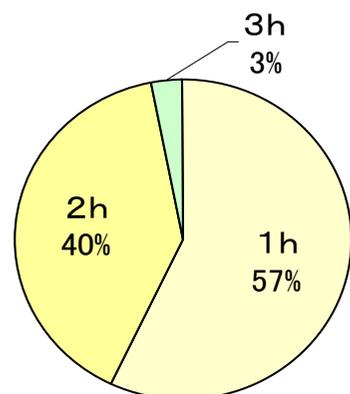
・子育てについて親自身の生き立ちや育てられ方などは大きく影響する。そのしがらみから抜けられない人や、自分自身の考えを押し通そうとする方に対して、どのような対応をすればよいのか迷うことがある。

柱③ 一時預かり 利用状況

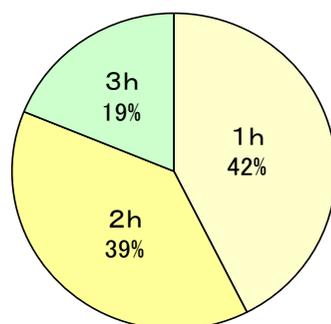
いくたす福山						
年度	期間(月)	人数	月平均	1時間	2時間	3時間
2010	6	185	31	138	47	
2011	12	345	29	196	149	
2012	12	531	44	254	257	20
2013	12	225	19	144	62	19
合計	42	1286	31	732	515	39

いくたす府中						
年度	期間(月)	人数	月平均	1時間	2時間	3時間
2011	11	118	11	60	58	
2012	12	171	14	66	58	
2013	12	116	10	46	41	29
合計	35	405	12	172	157	76

利用時間割合(福山)



利用時間割合(府中)



<傾向>

- ・1月以降、福山は一時預かりの希望が増えてきた。母親は往々にして自分の時間よりも子どもの時間を優先しているが、自分自身の時間の充実により、子どもとの関係も変化することも多い。スタッフは、子育て支援の観点から、育児の中心である母親のリフレッシュを含めた「自分を振り返る時間」をヘルプできるよう、相談のなかで一時預かりを勧めることも多くなっている。
- ・保育所入所や一時保育については、福山、府中ともに定員以上にニーズがある。いくたすは、日祝日も開所していることから、その補てんと共に就労以外のニーズに対しても幅広くこたえられとても重要な施設と考えている。県が進めていく子育て支援事業として、なくてはならないものであるといえる。

<課題>

秋以降、予算の調整を行いスタッフの数及び配置を見直した。その結果、日祝日の預かりも多くの場合可能となった。親子の遊びを見守るだけであるならばスタッフの数も最小限でよいと思うが、子育て支援事業ととらえるならば、一時預かりの充実も含めてスタッフの数と同時に質も大きく求められると思う。

保育所での一時保育が多くの園で実施されていても、まだまだすべてにこたえきれていない現状を見るにつけ、予算をどの部分にあてるかは必然であると考えます。

県事業の子育てサポートステーションは、市町村事業とは違う、県全体を総括し、先駆的な取り組みを積極的に行っていくことが求められていると考える。子どもの健やかな育ちを保障しながら、一時預かりを求める保護者の意見をあげ、市町に必要な支援の方法を提案していきたいと思う。

2 行政とのコラボレーション(協働)事業

行政とのコラボレーション

①「親の力」を学びあうプログラム(親プロ) <福山>

<無料> (広島県教育委員会 広島県立生涯学習センター)

●内容

父親を対象に「パパの子育てトーク～パパの楽しみをもちかえろう～」をテーマに、父親の休みを考え、土曜日に父親のための親プロを2回行った。また、初めての取り組みとして、マタニティママを対象とした親プロも8月に実施した。本来は初めての子どもを妊娠したママを対象としているが、子育てサポートステーションの特性として第二子・第三子の出産を控えているママを対象とした。広島県生涯学習センターの把握したなかでも、マタニティの親プロ講座はほとんど実施したことがないため、非常に貴重な資料となったようだった。広島県の施設として、より多くの県の事業に参画、協力することで、より子育てしやすい県であるよう県民にアピールしていくことが大切である。

2013年度内容		参加人数
9月	おつきあいて難しい	5
10月	ワイワイキヤーカー	6
11月	〇〇ちゃんがする	5
12月	私の時間子どもの時間	6
1月	買って買って(2歳児対象)	4
2月	お父さんの子育てトーク	2
3月	ワイワイキヤーカー	6

ママの 再就職応援セミナーへの呼びかけ 「先輩ママの就活体験談」

8月に続き、広島県から事業委託をうけたLEC(東京リーガルマインド)主催のセミナーが2月20日に予定されて実施された。母親の多くは自分の時間として仕事がしたいが、どのくらいの年齢になったら始めたらいいか、子どもに無理のない働き方はどのようなものか自問自答している。今回は先輩ママの体験談を聞く機会を設け、いくたすスタッフも先輩ママの一人として協力し、子育て支援環境を伝える。(15名参加 4名先輩ママ)

② 就活おしゃべりタイム <福山 年6回・府中 年2回>

<無料> (広島県産業人材課) 委託先:LEC東京リーガルマインド広島本校

●内容

就職活動に関心を持っている利用者同士がワークショップを行い、お互いの意見や考えを語り合う。他の全子育てサポートステーションでも行っているが、そのテーマはその利用者の現状によって決定する。

2013年度内容			参加人数
福山	9月	ハローワークインターネット検索方法	8
	11月	就活が先? 預け先が先?	4
	1月	求職者支援講座について	7
府中	10月	個別相談	2

3. 子どもたちの すこやかな成長を願って

(1) いくたす子ども図書館への取り組み

<利用の決まり>

- ◆貸出期間 : 2週間以内
- ◆貸出個数 : 1家族 3冊まで
- ◆貸出料金 : 無 料



● いくたす福山

絵本貸し出し 利用状況			
年度	期間	利用組数	冊数
2010	(2010年10月1日～2011年3月31日)	155	311
2011	(2011年4月1日～2012年3月31日)	365	872
2012	(2012年4月1日～2013年3月31日)	343	895
2013	(2013年4月1日～2014年3月31日)	333	888
総合計		1,196	2,966

● いくたす府中

絵本貸し出し 利用状況			
年度	期間	利用組数	冊数
2011	(2011年5月7日～2012年3月31日)	187	461
2012	(2012年4月1日～2013年3月31日)	126	321
2013	(2013年4月1日～2014年3月31日)	79	217
総合計		392	999

いくたすでは、開所当初から絵本の貸し出しを行っていた。これは、いくたす福山が、もともとイトーヨーカドー独自の無償事業の「子ども図書館」であったことと、絵本は子どもたちの情緒的発育には欠かせないものとの考えたからである。

いくたす福山、府中共に600冊あまりの絵本を常時準備しており、いつでも親子で見ることができる環境にしている。家庭で読み聞かせをしているという家庭は、0.1歳児には意外と少なく、2歳を超えたあたりから、祖父母や友達からのプレゼントや乳児雑誌などでおはなしにふれることも増えてくるようである。これは、乳児には理解が難しいという多くの保護者からの意見であった。

<0歳児への絵本を取り入れた取り組み>

いくたす福山で0歳児の講座で絵本を取り上げてみた。読み聞かせをスタッフがし、保護者の方にも1対1で様々な絵本を子どもたちに見せるという経験をしていただいた。字の多いものはできるだけ外し、はっきりした色でほとんど絵だけのものや、繰り返しのフレーズが多いものを選んだ。子どもたちは絵本をさわったり、ページをめくったり、指さしたりさまざまな表情を示すことに保護者の方は驚かれた。年齢に合った教材の選び方や、今の子どもたちが何に対して興味関心を持つか、つまり子どもの発達について細やかに保護者に伝えることも、私たち保育のプロとしての子育て支援従事者の大切な役割ではないか。

(2) いくたす 子どもおもちゃ館への取り組み

<活動への経緯>

数多い絵本の貸し出しをする中で、親からも祖父母からも、どのような玩具を与えたらよいのかという相談も多く寄せられ、いくたす内にある玩具についても対象年齢や、遊び方についても質問があがっていた。

玩具店にはさまざまな素材のものやキャラクターものなどがある。また、最近は壊れてもいいと安価な玩具を選び、その時期だけの楽しみであればいいという声も聞くようになり、子どものすこやかな発育に対しておもちゃの位置づけをどのように考えればよいのかという疑問も生じた。いいおもちゃを使って親子で遊ぶなかで、子どもの成長を感じたり、子どもとの温かいコミュニケーションの時間となつてほしいとも考えた。

そこで、いくたす福山のみではあるが、1月中旬より家庭でのコミュニケーションツールとして使っていただけるよう、まずおもちゃの貸し出しを始めた。このおもちゃは、どの年齢でも興味を示すものを選び、いくたす内で使用している以外の新しいものを準備した。それと同時に、スタッフは貸し出しだけでなく、毎月の「作ってあそぼう」で取り組む手作りおもちゃや、講座内での子どもの発育に対しての玩具の効果なども意識して保護者に伝えるようにした。

<取り組み内容>

①木育(いくたす府中)

②おもちゃの貸し出し(いくたす福山 今後はいくたす府中でも実施予定)

③年齢に合ったおもちゃについての助言、提案

④手作りおもちゃなどの家庭でも楽しめることについての提案

子どもにとって「おもちゃ」とは、自発的に自分で考え、工夫することによって、動きや音、その変化を楽しむことができるものである。また、私たち大人がいいものを長い間大切に使うことで、子どもたちにも「物を大切に使う心」を育てることにもなる。子どもの姿を通して、玩具に対して深く考察し、今後も保護者の意見を参考に取り組み方を考えていく。

①木育へのとりくみ（いくたす府中）

●木育とは…「子どもをはじめとするすべての人びとが、木とふれあい、木に学び、木と生きる」とりくみ。

●2013年度の活動（後期）

日時		場所	参加者総数	大人	子ども
10月16日	10:00～16:30	いくたす府中	46	21	25
11月22日	10:00～16:30	いくたす府中	51	23	26
1月10日	10:00～16:30	いくたす府中	51	24	27
2月13日	10:00～16:30	いくたす府中	60	29	31
3月8日	10:00～16:30	いくたす府中	44	18	26

<活動内容>

いくたす府中では定期的に木の玩具にふれる講座を設け、子ども達だけでなく保護者にも木の玩具のぬくもりを感じてもらえるよう活動を継続している。スタッフとして活動へ協力した「木育キャラバン（移動型玩具美術館）」は、府中市内の公民館で行なわれ、2013年11月23、24日の両日で約2000人の来場者があった。いくたすだけの活動ではなく、地域の子供達に「木育」を広める活動においても積極的にとりくんでいる。

また、NPO法人府中ノアンテナが中心となって進めている玩具開発会議に定期的に参加し、その中で子どもの発達に合った玩具にするための意見や、保護者の思いなどを伝えている。開発された玩具は「kitas（キタス）」というオリジナルブランドとなり、府中市から全国に発信されている。今後も地域産業の活性化につながるよう継続していく。

<課題>

いくたすでの「木育ひろば」では、NPO法人日本グッド・トイ委員会より貸与された12種類の玩具にカプラや積み木を加え活動しているが、継続して利用して下さる方において同じ玩具を使う中でどのような遊びの展開をするか、スタッフ自身が遊びに対してやわらかな感覚をもつことも必要であり、今後の取り組み方を深めていく。



毎月行なっている「木育ひろば」の様子



「木育キャラバン」（府中市出口公民館にて）
2013年11月23日、24日

②おもちゃの貸し出し（いくたす福山）

<目的>

おもちゃを使って家族間であそぶなかで、家族のあたたかいふれあいの時間をもつことによりコミュニケーションのきっかけづくりを援助する。

それぞれのおもちゃの対象年齢を知り、子どもの発育発達に対し専門的に助言する。

<利用の決まり>

- ◆貸出期間：1週間以内
- ◆貸出個数：1家族 1種類まで
- ◆貸出料金：無料

<貸出玩具>

マグフォーマー、木のパズル、手作り玩具 など7種、12セット



<考察と課題>

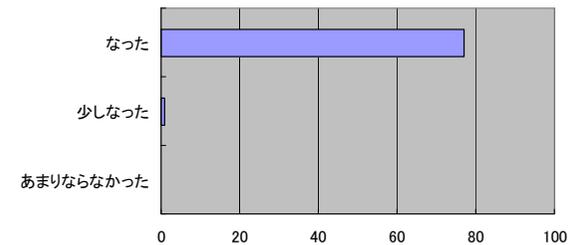
子どもの年齢によってはどのように子どもと遊んでいいのかわからない保護者もあり、おもちゃをツールとして使う意義は大きい。おもちゃであれば何でもいとらえる親はあまりおらず、長く使えて、いろいろな遊びができるものを希望していることもわかった。施設内でつかうおもちゃに関して、スタッフ自身が子どもの動きや興味を考察し、遊びの提案を積極的に行っていくことが必要だと感じる。現在は7種類であるが、いろいろな意見を取り入れながら種類を増やし親子の時間を充実させる支援を続ける。

また、いくたすで特に利用の多い0.1歳の子どもたちについての観察を続けていく。

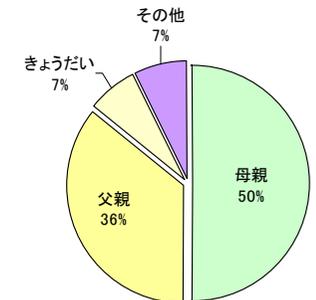
● 利用状況（2013/1/24～2014/2/12）

◆貸出総数：77

Q,親子でふれあう機会になりましたか？



Q,誰と遊びましたか？



◆利用者の感想

Q,どのようにして遊びましたか？

<マグフォーマー>

- 0歳・・・たたいて遊んだ。口に入れて遊んでいた。
- 1歳・・・形を作ったり、つなげて遊んだ。
大人が作ったものを子どもがこわして遊んだ。
- 2歳・・・父親と一緒に組み立てて遊んだ。

Q,おもちゃの貸出を利用してどう思いましたか？

- ・家庭でどのくらい興味を示すか試す事ができてよかった。
- ・子どもは新しいものが好きなので、少しの時間でも遊べてよかった。

③年齢に合ったおもちゃについての助言、提案

<活動内容>

いくたすは、0, 1歳の子どもたちとの利用が8割近い。0歳から1歳にかけての成長は目覚ましく、人にあやしてもらうなどの受け身から生まれる楽しい気持ちや、自分を見てくれている安心感を受ける。1歳を超えると、自分から何か行動を起こすことによって発展したり、変化することに気づき、大人がそれに気づいてくれることに対して期待する姿もある。

それらの子どもの姿を年齢別の講座等を通して、発達に即した関わりについて保護者に伝える役割をすることにより、保護者がより細やかに子どものことを理解し、健全な親子関係を築けるよう、私たちは支援していく必要がある。



積み木で繰り返し遊ぶ2歳児

④手作りおもちゃなどの家庭でも楽しめることについての提案



牛乳パックで作った
パクパク人形

<活動内容>

いくたすでは、福山・府中共に毎月「つくってあそぼう」という講座をもっている。できるだけその季節に合った素材や題材を選んでいる。また、牛乳パックやペットボトルのふたなどの廃材などの素材で、家庭でも簡単に準備したもので作れる手作りおもちゃにも積極的に取り組んでいる。

手作りおもちゃは、子どもと関わりながら作ることで愛着がわく。作ることが目的ではなく、その後の親子が関わりをもって遊べるようにすることが重要である。手型足型をとることもあり、子どもの成長を目で確認することができ、大変喜ばれている。子どもの姿を伝えるという目的をもった製作あそびを大切に続けていく。

4. 見守りが必要な親子における行政との連携

広島県子育てサポートステーション「いくたす」も、福山は3月で開所3年半、府中においても3年を迎える。毎日多くの親子と出会うなかで、親子関係について課題をもっていると感じることも少なからずある。

自治体の子育てにおける相談をされた保護者の多いなか、さまざまな子育て支援施設を利用する方も増えてきている。いくたすを利用したことを伝えた事から、利用頻度と、利用に際しての親子の様子について行政より問い合わせがあった。

今回の場合、当該親子が引っ越してきたばかりで、前の居住地から引っ越し先の市に「継続的な見守りが必要」との情報が入ったことから取り組みを始めた事例である。

該当の親子は、自治体間の動きがあることは知らないが、子育て支援施設として親子とつながりを持っている「いくたす」が、当施設での親子の様子を自治体に伝える大切な役割を担ったことで、行政からのスムーズな介入ができた初めての事案であった。

子育て支援施設においては、未就園児の利用が多いなかで親子の様子を敏感に感じ取り、それに対して必要であれば適切な連携をとり、虐待防止に努めることが大変重要な役割だと考える。

スタッフ個々に、親子の様子を感じ方は違うものの、気が付いた変化や、保護者の小さなつぶやきについても敏感に感じ取り、スタッフ一人一人が、毎日の終礼にてどのように関わったのかを細やかに情報交換することが大変重要となっていることを、スタッフ一同改めて確認した事案であった。

5. 利用者アンケート 集計および比較分析

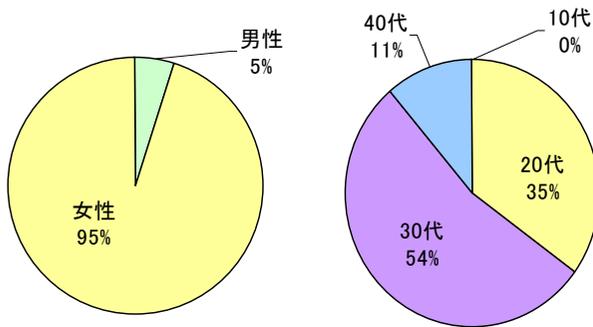
アンケート実施期間: 2014年2月2日～16日

対象者: **いくたす福山**利用者 100名 **いくたす府中**利用者 70名

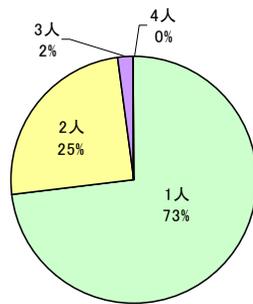
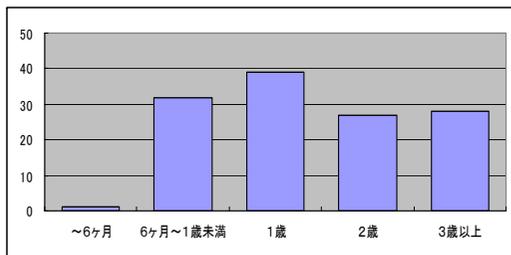
1) 利用者について

●いくたす福山

Q、自身の性別、年齢

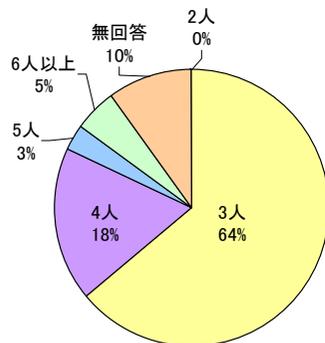


Q、子どもの人数、年齢



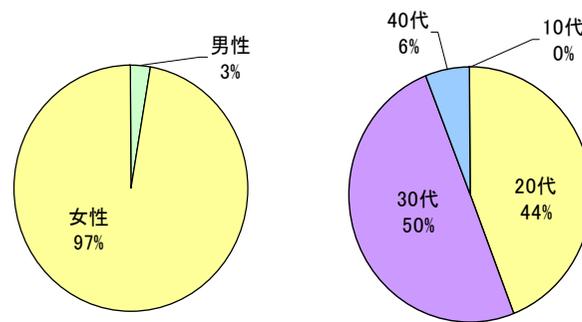
Q、家族構成

父親	99%
母親	100%
祖父	7%
祖母	9%
その他	1%

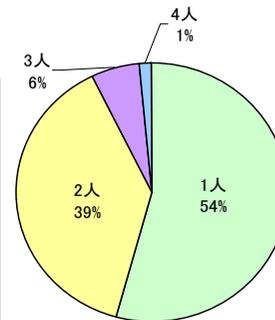
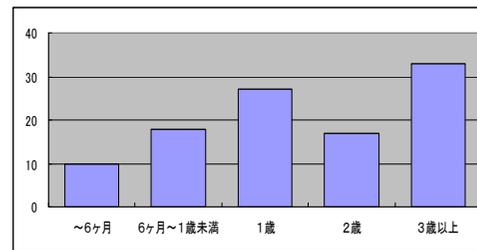


●いくたす府中

Q、自身の性別、年齢

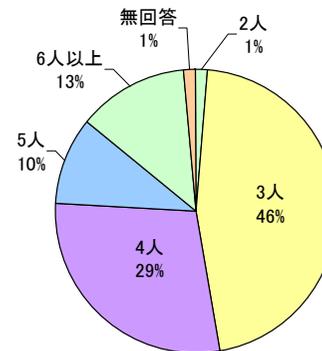


Q、子どもの人数、年齢



Q、家族構成

父親	96%
母親	100%
祖父	19%
祖母	20%
その他	7%



●分析・考察

利用者層については、8月に行ったアンケートと大きな差は見られない。今回は父親としての意見も聞きたかったのですが、できるだけこたえていただくようお願いしたが福山・府中合わせて8名にとどまった。

子どもの人数や年齢に関しても8月とあまり差はない。乳児は夏の間は外出を控えていたため利用が少ないと考えていたが、少し大きくなったので、保護者が外出したいと思いはじめるのではないかと。府中は、第2子出産家庭が多かったため、1件につき複数の子どもの利用がみられる。

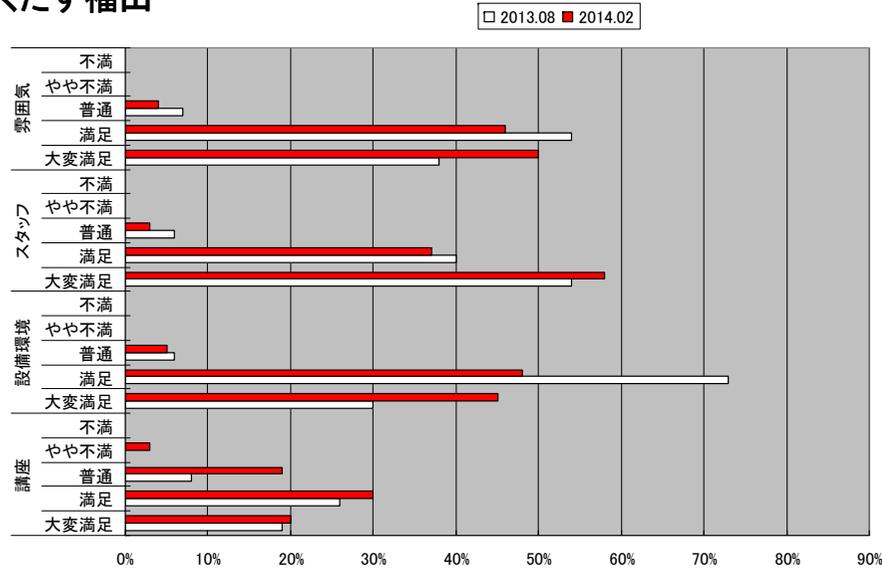
家族構成に関しては、地域性が表れている。

このなかには示してはいるが、利用の回数は、福山・府中どちらも月2～3回が3割、週1～2回が2割で半分を占める。天候に左右されない施設として、そして誰でもいつでも使え、子育ての専門のスタッフがそろっているという安心感から、身近な相談施設となっているといえる。

男性の利用については子育て支援センターより利用率は高い。男性からの意見をしっかりと聞き、環境構成や支援の方向性に生かしていく必要がある。

2)いくたすを利用した感想と親子の変化

●いくたす福山

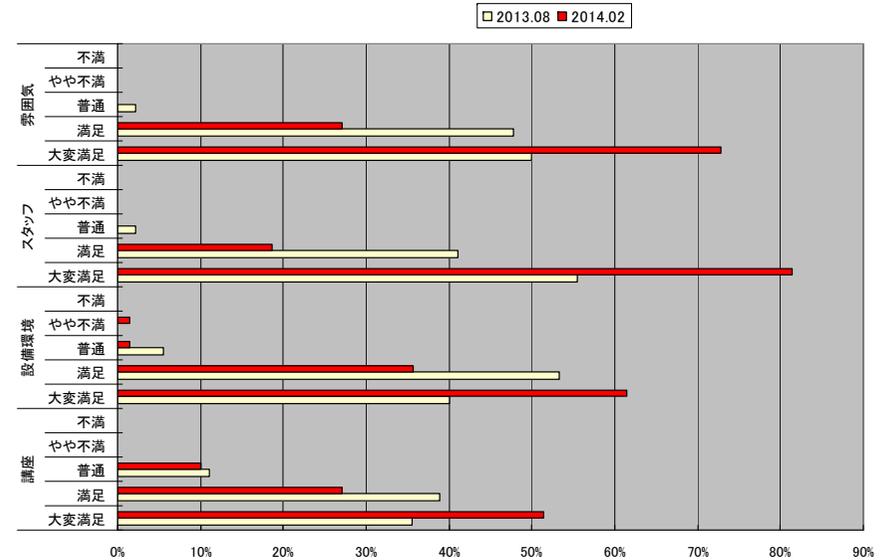


よかったこと(親)		
他者との交流	9	友人ができ、情報交換ができる。
環境	7	買物のついでに子どもも遊ぶことができる。
子どもの姿	4	家庭とは違った子どもの一面をみることができる。
気持ちのゆとり	4	話を聞いてくれる人がいる安心感がある。
子育て相談	3	実家が遠く、スタッフに相談できるので助かる。
その他	3	土日も利用でき、外出しやすくなった。

よかったこと(子)		
対人関係	10	たくさんの子ともと関わり、他の子に興味が出てきた。
発達	5	片付けを覚えた。新しいことができるようになった。
環境	3	雨の日でも遊ぶ事ができる。
その他	3	社会性や協調性がついてきた。
玩具	2	手を使う玩具が多くある。
あそび	1	できなかった遊びができるようになった。

その他	
タイムスケジュールが円滑になった。	
いくたすで遊ぶとぐっすり眠れる。	
講座などで他者との関わりが持てた。	

●いくたす府中



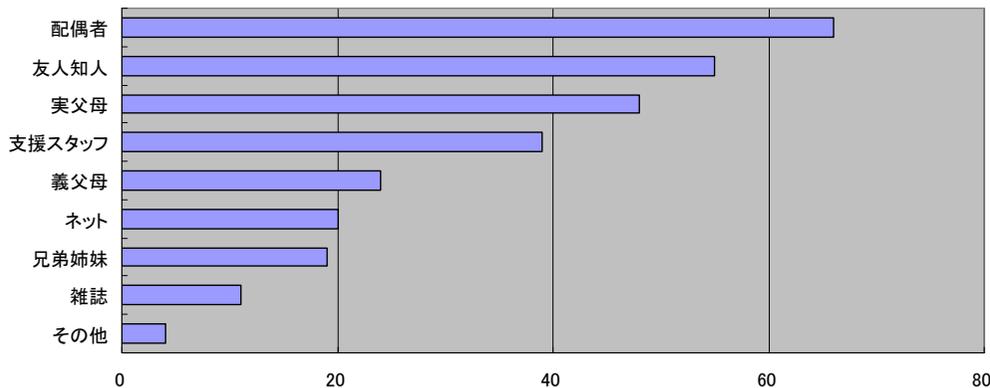
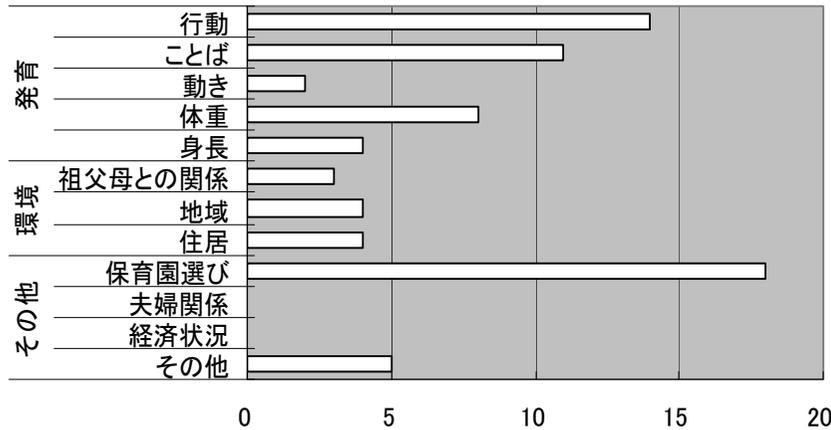
よかったこと(親)		
気持ちのゆとり	30	ほっと一息つける。ストレスが発散できる。
他者との交流	22	親同士悩みを話し合える。ママ友ができた。
子育て相談	14	気軽に相談できる。
環境	9	天候にかかわらず安全な場所で遊べる。
育児	5	子どもとの関わりが増え、育児が楽しくなった。
子どもの姿	2	他の子どもの様子を知ることができる。
その他	4	外出するきっかけができた。

よかったこと(子)		
対人関係	28	同年代の子ともと遊び、刺激を受けた。
玩具	23	家庭にはない玩具で遊ぶことができる。
あそび	4	製作など様々な体験ができる。
発達	2	成長が早くなった。
環境	1	安心して遊べる。のびのび遊べる。
その他	10	表情が豊かになった。

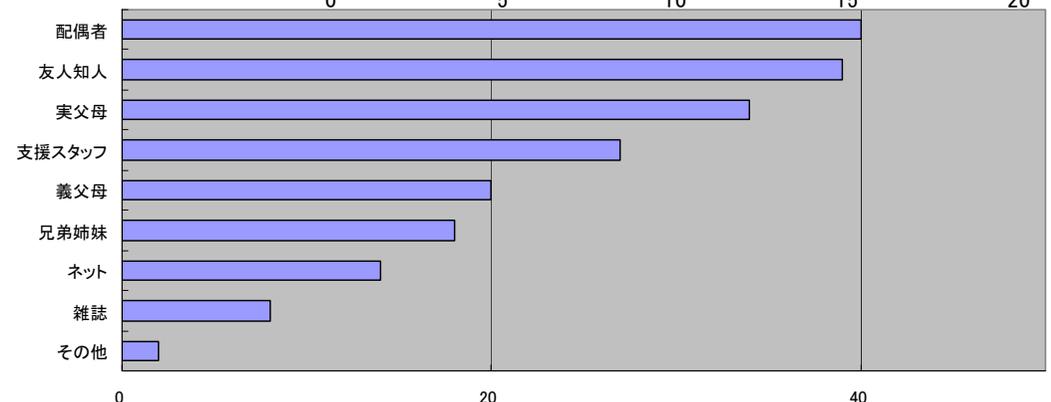
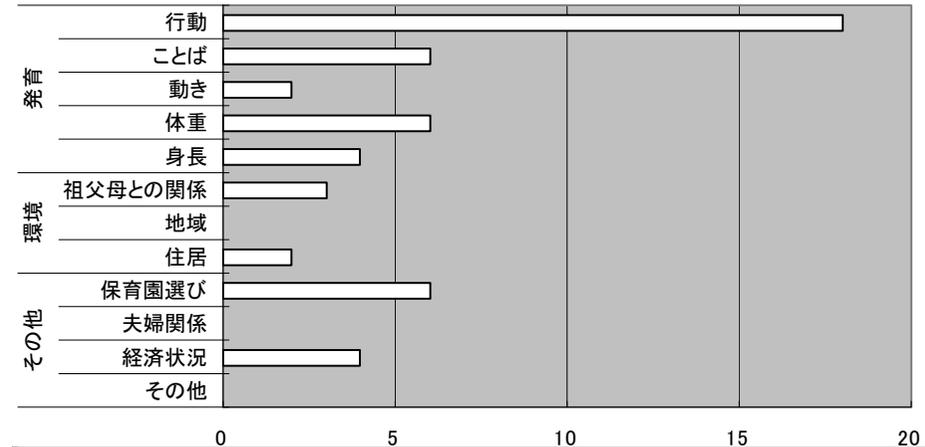
その他	
夫婦でのお出かけスポットの1つとなった。	
天満屋によく来るようになった。	

3) 子育てをする上での悩みとその相談支援

●いくたす福山



●いくたす府中



●分析・考察

子育てするうえで保護者は子どもたちが健やかに育ってほしいと願うあまり様々な不安をもつ。それを相談する相手に関しては、地域性は見られない。家族に相談することが主ではあるが、支援スタッフへの相談の割合に注目すべきと考える。

1歳6か月、および3歳児健診で自治体では丁寧な相談体制をとってはいるものの、毎日の生活のなか小さな不安は出ては消え、決してすべてをめぐえない。特に言葉や、行動については成長が目に見え、子育て支援施設を利用して他の子どもとの関わりをもち始めると特に顕著に個々の違いが見えることとなり、不安を訴える保護者も少なくない。子どもの行動に対してどのように育てれば「よくなるのか」と不安を吐露する場面も多い。子どもたちの成長にはさまざまな姿があり、保護者には個を認め愛することや、他者との関わりを通して、なぜそのような行動を起こしているのかを理解して受け入れることから始めることが必要だと感じる。その意味でも子育て支援施設は未就園児にとって他者と関わる初めての場所であることが多く、支援者は保護者と子どもをつなぐ大きな位置を占めることを自覚しなければならない。

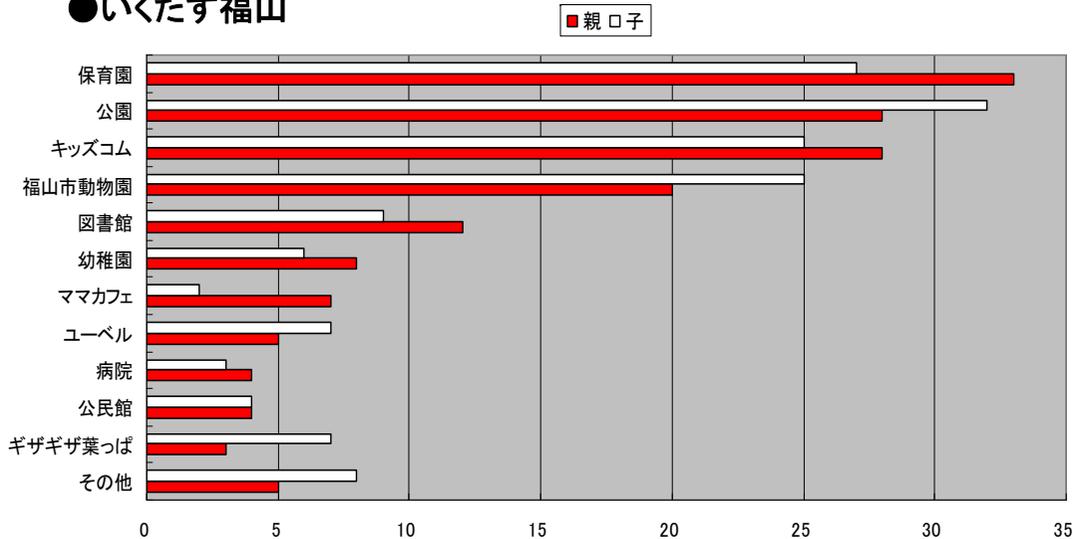
インターネットを利用しての子どもの発達についての情報取得には、さまざまな問題をはらんでいる。2割程度の方の利用がみられることが確認できた。子育て支援施設から子どもの発育についての正しい情報をどのように伝えていくかは私たち施設スタッフが深く考えていくべきことではないか。

今回のほとんどが母親からの意見であるが、少数であるが父親の意見は大事にしたい。家族の関わりに悩んでいる姿も垣間見ただけに、父親に対する支援の方法と本当の意味で「家族をつなげていく」支援のあり方を考えなければならないと感じた。

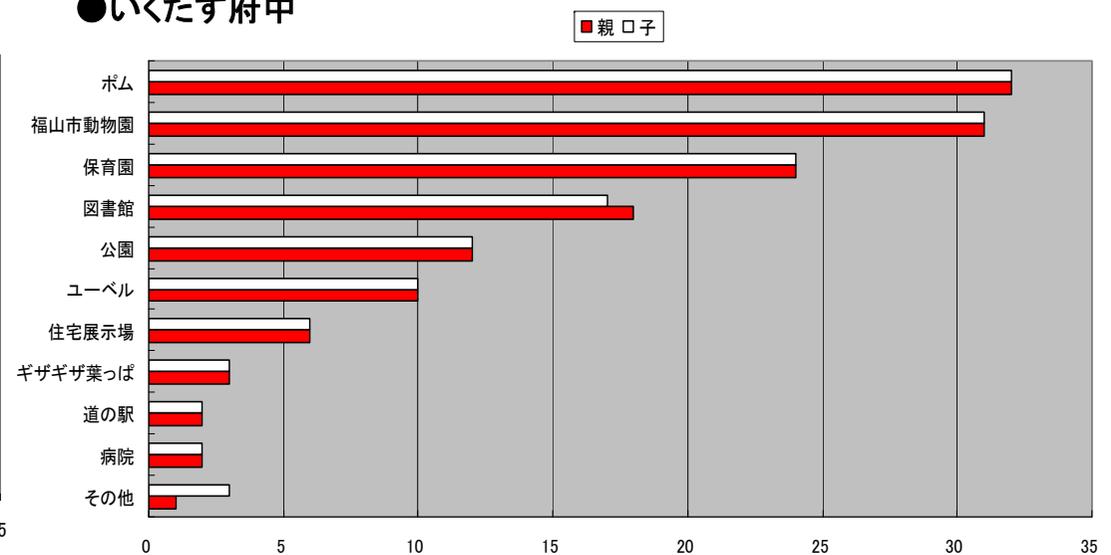
4) 子育て支援に望むこと

Q、お気に入りの場所(親、子)

●いくたす福山



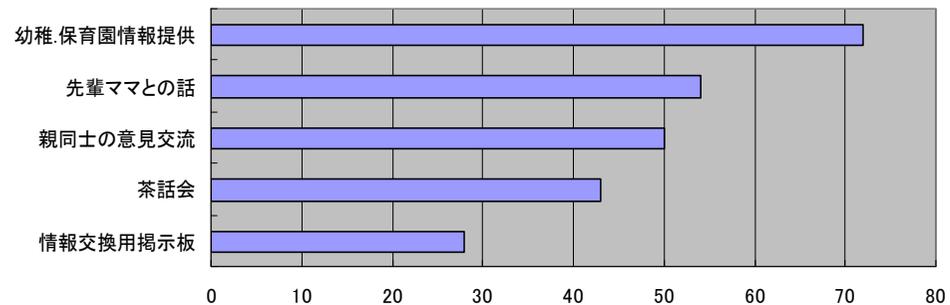
●いくたす府中



Q、いくたすより他施設の 良い所

ダンスや歌、体を動かす講座がある。
大型遊具がある。床暖房がある。
食事スペースがある。
保護者に向けた講座がある。

Q、支援施設にあるとよいもの



●分析・考察

小さな子どもとの利用は自宅から近い場所を選ぶ傾向にあり、子どもと保護者の好みに関してはほとんど変わりは見られない。動物園、公園など子どもが開放的に自由に動け、どちらかという子どものために行く場所と考えられ、図書館や、保育園・幼稚園等の子育て支援施設には保護者の情報を得られる場所としての認識があるのではないかと考えられる。また、保育施設のみならず歯科医院での歯磨き教室や診察中の託児など、さまざまな角度から子育て支援をしており、それぞれの専門性をもって支援の展開をしている。私たちの子育て支援施設では何の専門性を伝えることが必要なのか。ここで子育て講座の重要性を考える必要があるとわかる。

支援施設に求めるものとして意見交流を求める声が多く、自分のスタイルに合った人との交流を求めていると考えられる。親同士の意見交流をどのように仕組んでいくか、それぞれの施設の考えに基づいてさまざまな形で「つなぐ」大きな役目を果たしていきたい。

6. 今後の課題

①保護者のニーズをとらえ、その都度情報を地域へ発信

広島県子育てサポートステーション「いくたす」は、広島県の子育て支援施設として市内の他の施設とは違う広域的に支援する役割をもっていると考えます。子育て支援施設のスタッフは、保護者が子育てを少しでも前向きにできるようコーディネートする役目をもつ。「いくたす」は広域的な役目を担うため、施設間のコーディネートをする役目もあると考えます。このたび2回目の利用者意識調査を実施したが、子どもや家族に対して何を悩み、支援者には何を求めるのかは子どもの年齢や発育の状況によっても違いがみられる。意識調査を細やかにとり、それを分析し、地域の子育て支援施設に情報提供していくことで、その役割を小さいながら担っていく事を考えていけるのではないかと。

より地元根ざした事業体として、子育て支援センターがその情報を活用し、利用者のニーズにより細やかに寄りそう活動ができるよう、広島県子育てサポートステーション「いくたす」の方向性を考えていく。

②子育て支援実践交流を通して得たつながりを太く長く

今回の子育て支援実践交流会の開催につき、多くの施設の協力をいただくことができた。参加者の多くは、自分を振り返るためでもあり、利用者の動きや発言に対して客観的に観ることで、何を必要としているのかに気づくこともできた。

共に研修を深めている施設が保育所併設型の子育て支援センターのため、行事等で交流会への参加がすべての施設に及ばなかったが、1年間のなかで実践交流会の予定を早めに組み、より多くの方に参加していただける体制をとると同時に、保育園併設の子育て支援センターに加え、いくたすでの実践交流会を複数回実施することによって解決することができるかと考える。いくたすは毎日開所していることから、日時を設けなくても立ち寄っていただければその機会をもつことは容易である。施設内に会議をする場所がない事が難点ではあるが、芽が出たこの小さなつながりを少しずつ大きく育てていきたい。「子育て支援従事者連絡協議会」の立ち上げも含めて考えていきたい。